

事業所における自己評価結果						
事業所名		放課後等デイサービス ぞうさん板付教室				
		公表日 令和7年4月1日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		指定基準以上のスペースを確保した上で利用人数や活動内容に合わせて活動スペースの変更を行っている。	
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		基準を遵守した配置を行っている。	
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障がいの特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		プレイルームと学習室は区切られており、場面の切り替えがしやすく分かりやすい構造となっている。玄関はスロープはないものの手摺は設置されている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		毎日の掃除と整理整頓で清潔で心地よく過ごせる環境を保っている。プレイルームも十分な広さが確保されており、活動によってテーブル・マットの配置を変えて空間作りをおこなっている。	
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		学習室、相談室、事務室等を利用し、個々に合わせて対応している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7		朝礼・終礼時にしっかりと打ち合わせを行う中で、改善点を話し合うと共に、定期的に業務分担を見直し、全職員がそれぞれの業務に対して振り返りを行い、意見を出し合い改善に努めている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		保護者からのご意見は真摯に受け止め、業務改善につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		朝礼・終礼時に全体で思ったことや意見を言える環境が整えている。また、個別に管理者との面談の機会を設け、業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7		今後、検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7		幅広く研修の機会を設けている。受講できなかつた職員も研修記録に目を通すことを推奨し、全職員の資質の向上を目指している。	法人内で研修の情報共有や意見交換を行う機会を検討したいと思う。
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		支援プログラムを作成し、HPでの公開と共に、保護者に配布を行っている。	
	12	個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7		定期的に個別に面談を行い、適切にアセスメントを行っている。児童や保護者のニーズや課題に沿った個別支援計画書を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		個別支援計画の原案を基に、原案会議を行い最善の支援について意見を出し合い検討している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		個別支援計画書は全職員が共有し、計画に沿って支援を行っている。また、計画に応じて、運動や学習等の個別支援を行っている。	
	15	子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7		事業所でアセスメントシートを作成し、活用している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7		個々の利用児に必要な項目を設定し、ニーズや課題に沿ってスマーリステップで支援目標を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7		毎月の活動予定は管理者が作成するが、ひとつひとつの活動においては、担当の職員が内容を立案している。同じ活動名でも、担当者によって内容が異なり、活動のねらいに対して多角的なアプローチで取り組むようにしている。	

援 の 提 供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		子どもの特性を考慮し、成長過程に合わせたプログラムを策定し、常に新しいプログラムを取り入れている。	
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7		個別活動として運動や学習、集団活動として日々の活動や専門的支援等の支援を行っているが、子どもが飽きないよう多様な内容で取り組んでいる。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7		朝礼の中で、活動等の内容説明や役割分担、時間配分等の確認を行い、チームで連携して支援を行っている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	7		終礼時に担当者を主として支援の振り返りを行っている。また、職員間で感想や意見交換も盛んに行われ、次につながるよう共有事項として日報に記録を残している。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		個別支援計画書の目標に沿った記録、日報、個別対応記録をとり、適宜スタッフミーティングの機会を設けている。	
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		継続が必要な支援に関しては、スマールステップでの目標に見直しを行っている。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	7		4つの基本活動を組み合わせ、多角的に支援を行っている。	
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7		子どもに応じて、適した自己選択の方法を提供し、各場面において自己選択、自己決定を促す支援を行っている。	
	26 障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7		全職員が子どもの状況をしっかり理解しており、誰が参加しても問題ない。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7		関係機関と情報共有を行っている。リハビリ等に関しては、医療機関と連携して統一した支援を行っている。	主に関係機関とのやり取りは管理者が行っているため、それ以外の職員に関係機関との連携体制の認識が薄いことが課題として挙げられる。
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7		気になること等あれば、送迎時に確認を行うなど必要に応じて適切に行っている。	
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7		必要に応じて情報共有を行っている。	
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障がい福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7			現時点では対象児童がいないが、今後、対象児童がいた場合には情報提供等を行っていきたい。
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7			機会があれば助言や研修を受けてみたいと思う。
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	7		地域の公園等での活動の際、積極的に地域の子供たちとの交流の機会を設けるようにしている。	近隣地域のお祭りやイベント等に参加する機会を作っていきたいと思う。
	33 (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	7			機会があれば参加したと思う。
	34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		日々の連絡帳や送迎時に、その日の様子や気になること等をお伝えしている。	
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7		ペアレントトレーニング、保護者会を年に1～2回程度実施している。	参加される保護者とされない保護者が決まつてくるため、広く参加していただけるよう努めていきたい。
運 営 方 法	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7		契約時に説明を行っている。	
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7		保護者、児童の双方にニーズ等の聞き取りを行っている。	
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7		少なくとも半年に1回は、保護者に対して個別支援計画書の説明を行い、同意を得ている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7		お悩みや相談には適宜対応している。また、必要に応じて関係機関と連携し支援を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	7		年に1～2回程度、保護者交流会を実施している。その際に、きょうだい児を含めて子ども達が交流できる時間も設けている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7		契約時に苦情相談窓口、苦情解決責任者の説明を行っている。苦情があった際には、迅速に対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7		インスタグラムを通した情報発信を行っている。随時更新を行っている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7		個人情報保護の規定に則り、取り扱いには十分注意している。書類は鍵付きの書庫に保存している。SNSにおいては、個人が特定されないよう配慮を行っている。	
	44	障がいのあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7		必要に応じて個別に配慮して対応を行っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	7		事業所の行事に地域住民を招待する機会は無いが、地域の公園活動やお買い物体験、外食体験等、地域での活動を積極的に行っている。	防犯の観点上、難しい点もあるが、今後もより地域に開かれた事業運営を図っていきたいと思う。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7		各種マニュアルを策定し、安全計画に沿った訓練を行っている。訓練後には、保護者に実施の報告を行っている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7		業務継続計画を策定し、定期的に訓練を行っている。	職員を対象とした訓練をより一層強化していきたいと思う。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7		契約時に保護者に確認を行っている。また、病院受診後には、保護者より情報共有をしていただいている。	
非常時等の対応	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		契約時にアレルギーの有無を確認し、クッキング等の活動の際には、個別に対応している。	今現在、医師の指示書を提示されている児童は居ないが、今後、提示される方については指示書も基づいて対応する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7		安全計画を作成し、定期的に研修や訓練を行っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7		安全計画に基づく取り組み実施後に、保護者に報告（お知らせ）を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7		小さなことでもヒヤリハットに記録し、職員間で共有し、再発防止と共に気付きを確認し、日々の業務に役立てている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7		マニュアルの周知を行うと共に、定期的に研修を行っている。室内に防犯カメラを設置し、適宜確認できる状態にしている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7		契約時に説明を行い、同意を得ている。	